

2

【ひろばの風】

2021年、社会福祉学科は
Re-BORNへ！
社会福祉学科長
田中 顕悟



3

【Campus News】

- ・ 本学学生が所属するFC今治レディースが全国大会へ出場
- ・ 本学教員が文部科学大臣表彰の「短期大学教育功労者」受賞
- ・ 「第3回スポーツ・レクリエーション・フェスティバル in 風早」を開催

他

4

【Campus News】

- ・ 「大学祭2012～2019 パイプオルガン演奏会メモリー」の番組放送
- ・ 本学留学生2名「台北市との小中学校友好交流推進員」に任命
- ・ 硬式野球部が四国地区大学野球連盟秋季リーグで初出場初優勝1部昇格

他



5

【Campus News】

- ・ 愛媛大学との包括的連携協力協定・専門職人材育成についての覚書 調印式
- ・ シエナの聖カタリナ像が東京都美術館の企画展に展示

他

【ご寄付のお願い】
教育振興募金のご案内

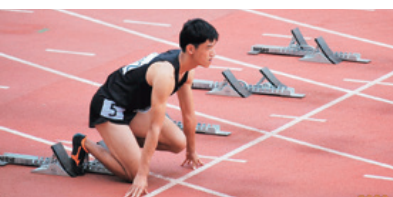
人愛媛大学と学校法人聖カタリナ学園聖カタリナ大学・聖カタリナ短期大学との包括的連携協力協定・専門職人材育成についての覚書



カタリナ ひろば

Vol.33
2021.2

聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部
www.catherine.ac.jp



6

【クラブ紹介】

陸上競技部



7

【ようこそ就職課へ】

就職課長 鈴木 勝



8

【ESSAY】

「たゆたえども沈まず」の精神
人間健康福祉学部健康スポーツ学科
中川 雅智

9

【ゼミナールインタビュー】

人間健康福祉学部看護学科
梶原 恭子ゼミ



10

【教員著書紹介】

子育て支援員研修テキストブック
仲野 由香利
(聖カタリナ大学短期大学部講師・一藝社)
大学生のための
健康・スポーツの基礎知識
青木 謙介・曾我部敦介 編著
(聖カタリナ大学 准教授・創風社出版)



2021年、社会福祉学科はRe-BORNへ！

社会福祉学科長 田中 顕悟

2020年は、新型コロナウイルス感染症が全世界に拡大し、深刻な影響が生じました。

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、療養中の方々とそのご家族の皆様にご心よりお見舞いを申し上げ1日も早い回復をお祈りいたします。

さらに、医療及び社会福祉専門職そして様々な領域のエッセンシャルワーカーの方々をはじめ、新型コロナウイルスと戦う全ての方に、心より敬意と感謝の意を表します。

この新型コロナウイルス感染症の拡大により、私達は日常生活の様々な場面において、これまでと異なる対応を継続して行うことが必要となりました。その一方で、「新しい生活様式」・「リモートワーク」そして大学でも「オンライン講義」など、新たな変化が生まれました。今後、恐らく新型コロナウイルス感染拡大前と全く同じ状態に戻ることはないかもしれません。しかしながら、私達はこの1年にわたり、急激な変動に耐えそして対応をしてきました。それは、私達がこの変化に応じた新たなスタートを切ったことを意味しているのではないかと思います。

このような中、私達、聖カトリナ大学・社会福祉学科も「Re-BORN」として、国が進める社会福祉士の養成カリキュラムの改訂にあわせて、「愛媛の福祉」に貢献できる高度な専門職養成をすすめるべく、2021年に新たなスタートを切ることになります。ここでそのための新たな試みの一部をご紹介します。

①取得を目指す資格は入学後に選択します。

入学後の前期の講義を受講する中で、(1)社会福祉士、(2)社会福祉士+介護福祉士、(3)社会福祉士+精神保健福祉士のいずれかから選択できるようになります。

②新たに取得できる資格が増えます。

2021年度入学生より、①の3福祉士国家試験受験資格に加え「介護職員初任者研修」「福祉用具専門相談員」の取得が可能となります。特に「介護職員初任者研修」は、施設等の就職に非常に有利な資格とされています。



③新しい魅力ある科目の創設。

「えひめの福祉」（1年）では、社会福祉専門職を目指すための基礎科目として、愛媛県そして東予・中予・南予地方の行政及び社会福祉関係者の方より、愛媛県全体と各地域の福祉の現状に関する講義をいただきます。また、社会福祉専門職には修得が必須の相談面接技術に関連し現役アナウンサーの方を講師に迎え「コミュニケーション入門」（1年）として、プロのコミュニケーションの知識・技術の講義をいただきます。

今後の「Withコロナ」時代の中で、QOLの維持・向上のためには、医療専門職によるサポートと同時に、人間の体と心そして何より「環境」を含めた「生活全体」に目を向け支える社会福祉専門職の支援活動の重要性が高まるとされています。私達、社会福祉学科教員一同は、2021年も「愛媛の福祉」の発展のために真摯に専門職養成に努めていく所存です。

本学学生が所属するFC今治レディースが全国大会へ出場

9月27日(日)に開催された皇后杯JFA第42回全日本女子サッカー選手権大会四国地区予選において、本学学生が所属するFC今治レディースが本選出場を決めました (vs 四国大学: 2-10)。FC今治レディースには健康スポーツ学科3年 橘高海音さん、健康スポーツ学科2年 竹田果矢さん、社会福祉学科1年 前田佳澄さんの3名が所属しています。

FC今治レディースは、11月28日(土)から開催された皇后杯JFA第42回全日本女子サッカー選手権大会に出場しました。

本学学生が「第72回全日本学生新体操選手権大会」「第73回全日本新体操選手権大会」に出場

10月24日(土)～27日(火)、「第72回全日本学生新体操選手権大会」が福山市のエフピコアリーナふくやま(福山市総合体育館)において開催され、健康スポーツ学科3年 芳之内乃亜さんが個人競技に出場いたしました。

なお、芳之内さんは本大会の成績により、11月20日(金)～22日(日)に群馬県高崎アリーナで開催された「第73回全日本新体操選手権大会」へ出場を果たしました。

芳之内さんは、この大会への出場を目標にして日々練習へ取り組んでいたもので、3年目に見事に念願がかないました。



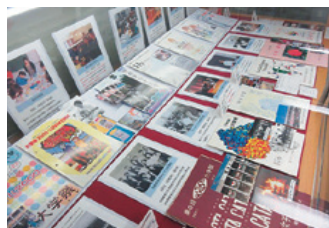
「大学沿革」と「大学祭パンフレット」展

附属図書館(北条本館)では1966年に開催された第1回から2019年までの大学祭のポスター、パンフレットを展示しました。

今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から残念ながら大学祭は中止のやむなきに至りましたが、今までの大学祭の歩みをポスター、パンフレットにより振り返り、学生・教職員の皆さんに改めて大学の歩みを見ていただきたく企画しました。

この展示にあたっては、ポスターの印刷データについては、岡田印刷株式会社から提供を受けました。またパンフレットについては、学生支援課から借りました。

関係各位のご協力に感謝いたします。



本学教員が文部科学大臣表彰の「短期大学教育功労者」受賞

10月23日(金)、聖カタリナ大学短期大学部 保育学科 藤井澄子 教授が、文部科学大臣表彰の「短期大学教育功労者」を受賞しました。

今回の表彰は、短期大学教育70周年を記念して、短期大学教育に長く従事し、その功労が顕著な者及び短期大学教育に特に功績があった者を文部科学大臣が表彰し、その功に報いるとともに、短期大学教育の発展に資することを目的として行われました。



「第3回スポーツ・レクリエーション・フェスティバルin風早」を開催

11月7日(土)、「第3回スポーツ・レクリエーションフェスティバルin風早」が北条スポーツセンターで開催されました。

このイベントは、松山市文化・スポーツ振興財団との連携協定の一環で開催される毎年恒例のイベントです。

新型コロナウイルスの影響で様々なイベントが中止・延期を余儀なくされていますが、今回のイベントでは企画の段階から感染予防対策に細心の注意を払った上でイベントが開催されました。

当日、体育館では聖カタリナ大学杯「親子チャレンジ・ザ・ゲーム」、健康・運動相談コーナー、ロコモ予防啓発コーナー、ファミリーフィットネス(ピラティス・自力整体・ZUMBA等)が行われました。

親子チャレンジ・ザ・ゲームでは保育学科の学生が「チャレンジ・ザ・ゲーム普及審判員(日本レクリエーション協会公認)」として記録を判定しました。

健康・運動相談コーナー、ロコモ予防啓発コーナーでは本学教員・学生から健康に関する助言等があり、健康管理や自身の体力についてご理解をいただきました。

コロナ禍の状況にもかかわらず、本イベントにご来場いただきまして、誠にありがとうございました。

今後も聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部は松山市文化・スポーツ振興財団と協力し、皆様の健康増進・健康管理を継続してサポートしていきます。



「大学祭2012～2019 パイプオルガン演奏会メモリー」の番組放送

新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、観客の皆様健康と安全を第一に考えて、令和2年度の大学祭パイプオルガン演奏会は中止させていただきました。例年、聖カタリナホールをほぼ満席で生のオルガンの響きを楽しみにして下さる皆様のご期待にそえず残念でしたが、代替プログラムとして「大学祭2012～2019 パイプオルガン演奏会メモリー」と題する過去演奏会の映像番組を愛媛CATVで放送しました。

一日も早い新型コロナウイルスの収束と皆様のご健康をお祈りしております。



硬式野球部が四国地区大学野球連盟1部昇格

11月23日(月)、坊っちゃんスタジアムで開催された四国地区大学野球連盟1部2部入替戦第2戦目において、本学硬式野球部が10-0(5回コールド)で勝利し、前日の結果と合わせて1部6位校の徳島大学に2勝したため、連盟史上最速で1部昇格を果たしました。

2021年4月3日(土)より開催される令和3年度四国地区大学野球連盟春季リーグにおいて優勝いたしますと、大学野球連盟史上初めての創部3年目での全国大会出場となります。

選手、スタッフ、一丸となって大学野球史に歴史を残したいと思います。

今後とも応援の程、何卒、よろしくお願いいたします。

入替戦第2戦：11月23日(月)

vs 徳島大学 ○10-0 (5回コールド)

入替戦第1戦：11月22日(日)

vs 徳島大学 ○4-0

本学留学生2名「台北市との小中学校友好交流推進員」に任命

11月19日(木)、松山市教育委員会より、台湾人留学生の健康スポーツ学科4年生の温芷萱さんと人間社会学科4年生の葉梓寧さんが「台北市との小中学校友好交流推進員」に任命され、委嘱式に参加しました。

令和2年2月に湯築小学校で行った2人の授業が好評であったとの感想をいただいております。

引き続き日台交流と理解に努力してまいります。応援のほどよろしくお願いいたします。



硬式野球部が四国地区大学野球連盟秋季リーグで初出場初優勝

本学硬式野球部が10月より開催された令和2年度四国地区大学野球連盟秋季リーグ2部において4戦4勝の全勝で初出場、初優勝を決めました。



クリスマス イルミネーションの点灯について

冬の風物詩となった聖カタリナ大学のイルミネーション。

12月1日(火)、北条キャンパス(上段写真)と市駅キャンパス(下段写真)にてイルミネーションの点灯を開始しました。カトリック大学らしい幻想的な光に彩られています。



愛媛大学との包括的連携協力協定・専門職人材育成についての覚書 調印式

11月27日(金)、愛媛大学と聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部との包括的連携協力協定・専門職人材育成についての覚書 調印式が愛媛大学本部で行われました。

調印式では、愛媛大学 大橋 裕一 学長とホピノ・サンミゲル学長が協定書を交わしました。

【包括的連携協力に関する協定書】

- (1) 人材、特に専門職人材の育成に関すること。
- (2) 地域創生への貢献に関すること。
- (3) 研究の推進に関すること。

【専門職人材の育成についての覚書】

- (1) 公認心理師養成の連携教育
- (2) 公認心理師の教育に係る教員の連携

本学は県内大学で唯一、心理職初国家資格である「公認心理師」の学部教育に求められる教育課程を人間社会学科に置いています。一方、この度、連携協力協定を締結した愛媛大学には、公認心理師の大学院に求められる教育課程が置かれています。今回の協定の一貫として、両大学の教員が公認心理師の養成教育に協力することが決まりました。今後は、人間社会学科において同資格の学部教育における単位を修得した学生が、愛媛大学大学院に進み公認心理師になるという一つルートが生まれました。



シエナの聖カタリナ像が東京都美術館の企画展に展示

本学聖カタリナホールに設置している「シエナの聖カタリナ像（作：シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田）」が、東京都美術館の企画展「Walls & Bridges 世界にふれる、世界を生きる」に展示されることとなりました。

企画展は、2021年7月22日(木)～10月9日(土)に東京都美術館（東京都台東区上野公園8-36）で開催されます。

【聖カタリナ像の制作者】

シルヴィア・ミニオ＝パルウエルロ・保田 Silvia Minio-Paluello Yasuda (1934-2000)

イタリアのサレルノに生まれた。彫刻家であった夫 保田春彦を支え、家事と育児に専念しつつ、寸暇を惜しみ、彫刻と絵画の制作にいそしんだ。敬虔なクリスチャンであった彼女の真摯な制作は、切実な祈りそのものだった。



聖カタリナ大学 人間健康福祉学部長選挙について

聖カタリナ大学人間健康福祉学部においては、現学部長 恒吉和徳 教授の任期満了（令和3年3月31日）にともない、次期学部長選挙を12月21日(月)に行い、秋山昌江 教授が選出されました。

任期は令和3年4月1日から2年間です。

聖カタリナ大学短期大学部 保育学科長選挙について

聖カタリナ大学短期大学部保育学科においては、現学科長 大上紋子 教授の任期満了（令和3年3月31日）にともない、次期学科長選挙を1月14日(木)に行い、竹田信恵 教授が選出されました。

任期は令和3年4月1日から2年間です。

ご寄付のお願い【教育振興募金のご案内】

聖カタリナ学園は、2025年に創立100周年を迎えます。

聖カタリナ学園では聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部の教育事業を永続的に発展させるため、また、教育環境の維持、充実を図るための支援として、皆様からの募金のご支援を受け付けております。趣旨をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ・お申し込み先】

学校法人聖カタリナ学園 法人本部事務局 〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地
TEL 089-993-1300 FAX 089-992-5616



クラブ紹介

陸上競技部

私たち陸上競技部は、4年生1人、2年生8人、1年生2人の11人で活動しています。昨年までは陸上競技同好会として活動していましたが、今年度からは正式に部として活動しています。練習は大学内にあるサルーテや愛媛県総合運動公園などで行っています。また、練習で得た成果を発揮するために愛媛県内の記録会などの大会や県外で行われている大会などにも積極的に参加しています。今年度はコロナウイルスの影響もあり、愛媛県の大会はほとんどが中止になり、県外で行える大会も10月のものだけとなってしまう自分たちが思うような活動ができず、とても大変な1年となりました。しかし、それでもいつ大会が行われてもいように一人ひとりができることを考え、チームで一丸となって頑張ることができました。10月に行われた中国四国学生陸上競技選手権大会では、女子10000m競歩で2位に入賞しました。その他の選手も自分の自己ベストや自己ベストに近い記録を出すことができました。



この1年間頑張ることができたのは、支えてくれている家族や練習場所を確保してくださっている顧問の松波先生など周りの人たちからの応援のおかげだと思っています。応援してくださっている人たちの存在に感謝しながら活動しなければいけないと改めて思った1年でした。自分たちの競技レベルを高めることはもちろんですが、陸上競技を通して努力することの大切さなど、これからの人生で大切なことも仲間たちと一緒に学んでいきたいと思っています。そのためにも部活動だけでなく、学業の面でも高い目標を持ち頑張っていきたいと思っています。今後とも応援の程、何卒よろしくお願いします。

陸上競技部部長 阿部 響



就職課は1年次から卒業年次まで「就職支援プログラム」に基づき、就職ガイダンスなどを実施し、社会人基礎力向上や社会常識全般を身につけ、主体的に就職活動ができる人材育成を目指しております。

ただし、2020年度はコロナ禍で予定していた「就職支援プログラム」の内、対面によるガイダンスや合同説明会は中止となり、学生は採用活動のオンライン化など、今までに経験したことがない就職活動となりました。

その対応策として、電話やメールシステムでの情報提供を増やし、学生の就職活動に対する不安感を無くすとともに、ZOOM等でオンラインでの個別相談や個別就職説明会、セミナーの提供、WEB面接の対応など、非対面による就職支援に尽力いたしました。

今後も個別の相談業務やオンラインによる就職支援を充実させて、学生にはオンラインと対面型を複合させた実効性のある就職支援を継続していく方針です。

さて、このような困難な時期に二人の偉人を紹介します。「為せば成る 為さねば成らぬ 何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」これは、江戸時代の米沢藩主上杉鷹山の言葉です。「どんなことでもやろうと思って努力すれば、必ず実現できる。逆に、無理だと思ってあきらめ努力をしなければ、絶対に実現できない」という意味です。

もし、あなたが様々な「できない理由」を探して勉強や就職活動を怠っているとしたら…。今成績が良くないのは、あなた自身に責任がある。決して、両親や環境の責任ではない。「やれば出来る」のだ。知恵を磨き、社会のために貢献できる自分をつくりあげるために、学生時代は勉強に励みましょう。また、財政の立て直しや様々な改革も実現しており、教職員が改革について学ぶことの多い偉人であります。

近代教育の礎を作った福沢諭吉は「学問のすすめ」のなかで、現代にも通じる6つの実学を勧めています。それは①読書②観察③推理④議論⑤作文⑥演説です。

- ①読書するだけでなく読書で学んだことを実際に行動に移してこそ価値があります。
- ②人は観察によって差に気づいたり、変化をいち早くつかんだりすることが出来ます。
- ③推理するとは、物事の道理を推理探究して自分の説をつくることです。
- ④議論は、自分で集めた情報、自分で考えたことに他人の視点や意見を加えることで、自分の考えはさらに洗練されていきます。
- ⑤作文は、自分の考えを伝えるために重要な実学として、文章を書くことを学ぶべきです。
- ⑥演説するとは、自分の考えを説明するビジネス社会でいう「プレゼンテーション」です。

さらに、「賢人と愚人の違いは学ぶか学ばないか」によって決まるとも言っています。

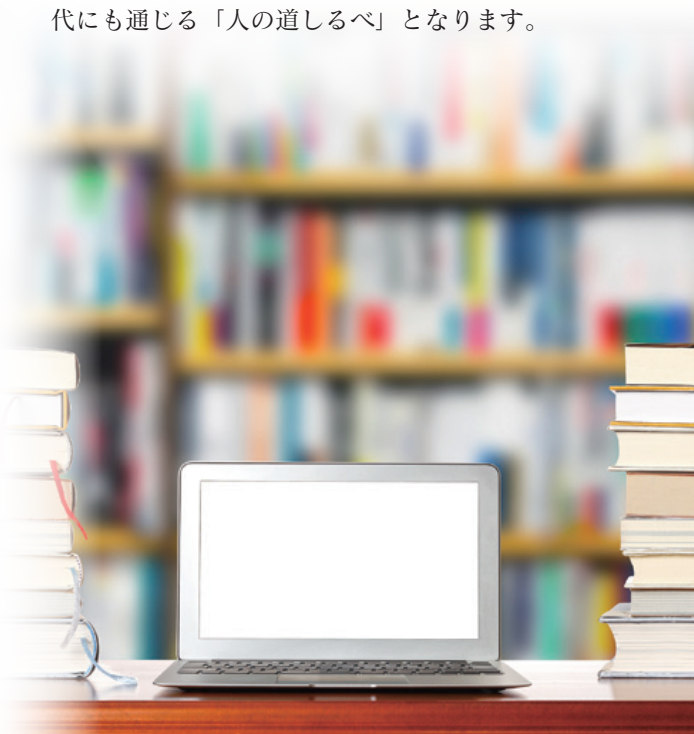
いつの時代にも自分を磨くことは重要であり、自分の未来を切り開いていくのに知恵が必要です。学生は社会人の仲間入りをするために、毎日、新聞を読みましょう。話題も増えるし、コミュニケーションも高まります。社会人としての基礎知識も深まるでしょう。

学生には早く目標を作りなさいと指導しています。目標がない学生には目標を見つける行動をしましょう。クラブ活動やボランティア活動、社会人と会う機会を増やすことで、見つかるはずです。前向きにチャレンジする人と受け身の人とは、その後の人生が大きく変わります。目標が見つかったら、目標達成のためにPDCAを回し続けることも重要です。

上杉鷹山も福沢諭吉の「学問のすすめ」も、実学を教えることの重要性を説いています。教職員は単に知識を教えるのではなく、人生の生き方や生きる知恵を教えること、学生の成長を第一に考えていることが重要です。学生の自分で調べる力を向上させること、勉強する習慣をつけさせること、教育の質を高めること。常に向上心が必要です。

学生は最新情報がある就職課でアドバイスを受けて、自分で就活スケジュールを立てること、将来の目標を決めて着実に前向きに行動すること。事前学習しないと能率が上がらないし、準備もしないで就職試験に臨むことは愚の骨頂です。やる気があれば前進できます。何もしないことは愚人です。

「歴史から学ぶこと」の大切さ、二人の偉人の業績は現代にも通じる「人の道しるべ」となります。



「たゆたえども沈まず」の精神

人間健康福祉学部健康スポーツ学科
中川 雅智

新型コロナウイルスが猛威を振っている昨今、様々な所で生活様式の変化を強いられています。本学だけを見ても、授業や入試、行事に至るまで何をするにもこれまで通りとはいかず、細心の注意を払わねばなりません。これがこのまましばらく続くのかと思うと正直うんざりしますし、我慢することが苦手な自分の性格を考えると耐えられないだろうと思い、趣味である旅行に行きたいとの衝動に駆られることもしばしばあります。かく言う私もこれまでは簡単に済ませていた帰宅時の手洗いとうがいを念入りに行うようにし、外出も控えるようにするなど、できる限り感染しないように過ごす毎日です。

先日、その帰宅時の手洗いをしていると手がかじかむことに気が付きました。この原稿を書いているのは2020年12月中旬。冷水に手を数十秒つければ、かじかむには十分な時間です。そういえば日が落ちるのも早く、山の木々は色づき、朝は布団から出るのが辛くなったなと思い、知らぬ間に「冬」が来ていたのかと痛感しました。

自己紹介が遅くなり申し訳ありません。私は健康スポーツ学科で助教をしています中川雅智と申します。専門は学校保健、公衆衛生学で若年者の生活習慣を中心に研究を行ってきました。またスポーツの方は高校までサッカー、大学ではラクロスと団体競技を行っていましたが、現在では趣味としてマラソンとスキーという個人でもできるスポーツを行い、悪戦苦闘しながらも上達・向上を目指しています。出身は富山県で、高校を卒業してからは千葉で9年間の大学・大学院生活、愛知の大学で4年間助手として勤務し、2年前に本学に着任しました。先ほど「知らぬ間に冬が」と書きましたが、出身が雪国ですから雪が降らないとどうも冬が来たという実感がわからず、富山を出てからは毎年違和感を抱きながら太平洋側の「冬」を過ごしております。また2020年は生まれて初めて年末年始の帰省をしないことに決めたため、美しい冬の立山連峰を見ることができず寂しさを感じているところです。

さて、この原稿を書くために2020年を振り返っていると、ふと昔読んだ本（タイトルは忘れてしまいました）に書かれていた「たゆたえども沈まず」という言葉を思い

出しました。この言葉はフランス・パリ市の標語であり、市の紋章（帆船のマーク）にラテン語で書かれていることで有名な言葉です。「たゆたえども沈まず」つまり「揺れたとしても沈まない」という意味で紋章のマークと併せると、どんなことがあっても帆船は沈まない、沈ませないという意味になります。パリはセーヌ川の水運で栄えた世界有数の大都市ですが、戦争や革命、テロなどの歴史に翻弄された都市でもあります。しかし、ご存じの通りパリはいつの時代でも世界一の大都市であり続けました。それはつらいことや悲しいことがあっても、パリに住み続けた人々がいたからだとは私は考えます。「たゆたえども沈まず」という言葉には「どんなことがあっても我々がいる限り、パリはパリであり続ける」というパリ市民の心意気が表れていると思います。

私はこの言葉が現在の日本社会に必要な言葉だと思っています。猛威を振るウイルス、増え続ける感染者、飛び交う玉石混交の情報、先行きの見えない未来。日本は今まさに風雨で荒れ狂う濁流の帆船の如くです。我々は多くの点で不安を感じながら生活しており、中にはそれに押しつぶされそうになる人もいることでしょう。しかし、船が揺れても、舵が利かずとも、帆が裂けようとも、我々は沈まない努力をしなければならないのではないのでしょうか。つまり、何が何でも生活し続けなければならないということです。私が読んだ本には「あきらめるな、くじけるな、そのために必死にあがけ、そうすれば沈まない」と書かれていたと記憶しています。我々は沈まないために（おそらくパリ市民がそうであったように）一人一人が必死にあがき、互いに助け合い、この状況を乗り切らねばなりません。既に多くの人が必死に努力をされていることと思いますが、改めて「たゆたえども沈まず」の精神で生活を続けることが大事なのではないのでしょうか。それが、日本社会がコロナ禍に勝利する唯一の道であるとは私は思います。

私も健康に携わる一人の研究者として、また今を生きる一人の人間として、できることから行動していこうと考えています。この状況が一刻も早く収束することを願いながら、今回は筆を置かせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

ゼミナールインタビュー

人間健康福祉学部看護学科

梶原 恭子ゼミ

ゼミのテーマを教えてください。

本ゼミの研究テーマは「母性看護」です。「母性看護」に関するあらゆるテーマを扱っており、妊・産・褥婦及び新生児の看護に関するもののみならず、女性のライフサイクルに焦点を合わせ、女性の健康を守るために必要な、様々な概念やテーマを取り扱っています。それは日本国内にとどまらず、外国までも視野に入れて女性が健康に過ごすための社会の仕組みや人々の考え方などに触れていきます。

研究テーマそのものは、学生が希望するテーマで行います。個人で取り組むことも複数名で取り組むことも可能です。

ゼミの特徴を教えてください。

本ゼミは、学生が主体的に動くことを大きな特徴としています。ですから、学生が自らテーマを決め進行を決めることが重要です。

学生の多くは書物を読むという機会が少なく、文章を書くことにも慣れていません。それは、研究を進めていくうえでの大きなハンディとなります。ですから、まずはじっくりと本を読むこと、そこに何が書いてあるのかを読み取ることに重点を置く必要があります。本ゼミでは、できるだけ多くの書物に触れるということを一つの特徴としています。このことは、学生が社会に出た時に大きな財産になると信じています。私たち看護師は、大学を卒業し、国家試験に合格することは通過点であり、そのあと学ばなければならないことは山積しています。その時に、専門書であれ一般書籍であれ、書物を手にするということはとても重要なことであり、そういう姿勢を持つことは大事なことです。多くの書物を手にすることで、考える力や書く力も身につけてきます。そういった力の基礎を養いたいと思っています。



ゼミのスタイルを教えてください。

本ゼミは、それぞれの学生が、自分の計画で動いていきます。まずは個人、小グループでそれぞれの進行に合わせて進めていきます。ある程度、研究が進んだ頃、全員が揃い、全員で検討していきます。もっとも、早い時期に学生全員が揃うことが難しく、個人作業中心に行わざるを得ないということもあります。しかし、この間に、多くの書籍、文献に触れ知識を蓄える良い期間となります。

プレゼンテーション力やコミュニケーション力も重視し、他者にわかりやすく説明する、他者の発表を聞き意見や感想が言え、それを素直に受け止めることのできる人間性も重要だと考えます。そのための雰囲気づくりも重要で、言わなければならないことはきちんとと言い、それを受け止める関係性も重要視しています。今年のゼミでも、最初は言いにくそうにしていた意見も、関係性が良くなってくるときちんと言えるようになってきました。勉強のみではなく、普段の会話もきちんとできることを大切にしています。看護職に就く者にとってチームの中で自分の意見をいい、他職種の意見を聞くという普通のことができる人物になってほしいと思っています。

梶原 恭子ゼミは **こんなゼミ**

梶原ゼミは、それぞれが興味を持った母性看護学領域に関するテーマについて看護研究を行いました。数回にわたって先生とゼミのメンバー間で発表や意見交換を行いました。メンバー間で研究テーマが異なり、他のメンバーの研究について新たな発見や気づきが多々あり、学びを深めることができました。また、先生にアドバイスをもらうことで広い視野を持ってそれぞれの看護研究を完成させることができました。課題をもって研究を進め、自分が得た研究結果によって疑問が解明され、社会についての考えを改める機会になったと共に社会に貢献できたように感じました。普段の講義では学べないようなことについて知り得ることができ、貴重な時間となりました。

渡部 紗希・山本 千晴



教員著書紹介

子育て支援員研修 テキストブック

仲野 由香利
(聖カタリナ大学短期大学部
講師)
出版社名／一藝社



表題の子育て支援員とは、2015年に制度化された小規模保育や放課後児童クラブ、地域子育て支援、社会的養護などの子育て現場での担い手です。保育や子育て支援の仕事に関心を持ち働きたい者を対象として、各都道府県で研修が実施されており、習得したと認められれば子育て支援員として従事することができます。

本書は、その研修に用いられる一つのテキストになります。受講者を想定していますが、広く保育や子育て支援に興味を持ち、学ぼうとする方にもわかりやすい内容となっています。国が定めた「基本研修」と「専門研修」により構成され、各コースを順序立てて説明しています。

本教員は「専門研修」のうちの「地域子育て支援拠点事業」について執筆を分担しています。現在、子育て研究会に所属し、地域子育て支援拠点においてペアレント・プログラムを用いた子育て支援を実践中であり、本書において具体例や写真を用い、より理解しやすいように工夫いたしました。

新たな知識として、参考にしていただければと思います。

大学生のための 健康・スポーツの 基礎知識

青木 謙介・曾我部 敦介
編著
(聖カタリナ大学 准教授)
出版社名／創風社出版



本書は、大学生を対象とした健康・スポーツに関する基礎知識を網羅した入門書です。聖カタリナ大学人間健康福祉学部健康スポーツ学科の教員がそれぞれの専門について、第1講から27講まで各4ページ程度の内容に分かりやすくまとめられています。執筆者の専門は「健康・スポーツ」と言っても多岐にわたっており、健康教育学、スポーツ社会学、比較文化学、スポーツ心理学、運動生理学、武道学、スポーツ医学、アスレティックトレーニング学、体育科教育学、公衆衛生学、スポーツ経営学、幼児体育学の12名の研究者が大学生に伝えたい内容を厳選しています。

本書を読んだ大学生が自分の身体や健康、スポーツに興味を持ち、自身の身体の変化や各ライフステージで変化する生活スタイル等を理解して、健康で活発的な社会人として生活してもらいたいと願っています。また、専門分野を学ぶ学生には、自分が進んでいく方向性を考えるきっかけになる書籍となればと思います。

大学
ダウンロード動画



大学
公式LINE



大学公式
Instagram



受験希望
の方



大学HP



保育学科
ブログ



学校法人 聖カタリナ学園

聖カタリナ大学

カタリナひろば vol.33

編集・発行

広報委員会

〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地

TEL (089) 993-0702 (代)

kouhou@catherine.ac.jp